

学長式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

長野県立大学は、皆さんを心から歓迎いたします。また、今日の日を目指して共に歩み、支えてこられましたご両親、ご家族の皆さまにも、心よりお祝い申し上げます。誠におめでとうございます。

本日は、阿部長野県知事をはじめ、長野県議会議長 鈴木清さま、長野市長 加藤久雄さま、その他大勢の来賓の方々にご臨席いただきました。この場を借りて心よりお礼申し上げますとともに、後ほどご祝辞を賜りたいと存じます。

今日は、皆さんの人生にとって大切な節目の日となります。また、本学にとりましても開学という極めて大事な記念の日となり、更には、長野県にとりましても、長野県の4年制総合県立大学として、初めての入学式という極めて重要な日となります。長野県民の本学に対する期待は、大変大きいものがあります。

歴史を紐解けば、長野県は教育県、今は「学びの県」と呼ばれ、江戸時代には全国で最も寺子屋が多かった地域の一つと言われています。まさに「学は信州にあり」でした。しかし現在、長野県に4年制の総合大学は決して多くありません。そのため、四半世紀前から本学の前身である短期大学に対する4年制化の強い要望がありましたが、その実現には、7年前の阿部知事の4年制化の方針表明を待たねばなりませんでした。その後、長野県の産学官の有識者の方々が協議・検討を重ね、知事の表明から2年後に新大学の「基本構想」が公表されました。その理想に近い基本構想を一つ一つ現実の姿に落とし込むことで、ここに新たな時代のモデルとなる素晴らしい魅力を備えた4年制大学が誕生したのです。ぜひ皆さんには、誇りを持って本学に学び、その若い力を世の中のため、長野のために発揮していただきたいと思います。この新たな大学に命を吹き込む、その「魂」となるのは、皆さん自身だからです。

この大学に入ることを決めた皆さんは、人生で最良の選択をしました。本学の教育方針、カリキュラム、教育スタッフ、学習環境、設置センターなど、どれ一つをとっても、全国の大学のトップレベルにあると考えられるからです。また、本学の目的もはっきりしています。豊かな人間性を備え、グローバルな視野を身に付け、長野に軸足を置きながら、新たな時代に活躍するリーダーやプロフェッショナルを輩出することです。ぜひ皆さんには、この学び舎で4年間、本学の長所を存分に利用して、自らの能力を磨き、高めていただきたいと思います。

本学は、教員と学生との距離が近い親身な教育を行いますが、決して皆さんを甘やかすことはいたしません。伸び盛りの皆さんの潜在能力をできるだけ引き出す教育をいたします。予習や復習に時間をかけ、ディスカッションを取り入れた双方向

の授業やゼミ形式の少人数授業を展開することで、皆さんを積極的に授業に巻き込み、理解を深め、学ぶことの楽しさや醍醐味を体験させます。こうした学びを実践することで、卒業時には、皆さんは自分の夢を叶える力を持つことができるようになるはずです。

中国の宋の時代の書に「自我作古」（じがさっこ）という言葉があります。「我よりいにしえを為す」と読み、「私から歴史が始まるのだ」という気宇壮大な意味を持つ言葉で、日本でも福沢諭吉が好んで使いました。この「自我作古」という言葉を1期生の皆さんに贈ります。新大学の1期生として、長野県立大学の歴史を創っていかうという気概を持ち、次の世代への模範となって、新たな道を切り拓いていく高い志を持っていただきたいからです。長野県立大学には、前身として、90年の歴史と伝統を持つ長野県短期大学があります。その気高き精神を引き継ぎ、その上に新たな長野県立大学の歴史を築くことが、皆さんと我々教職員に課せられた使命であり、皆さんとならばきっとその使命を果たすことができると私は信じています。この栄えあるミッションは、今日ここにいる1期生だけに与えられた特権でもあります。

本学での心構えを3つ挙げます。「夢を持つこと」「人と心を通わせること」そして「常に前を向いて生きること」です。4年間の大学生活は、長いようであっという間に過ぎて行きます。ぜひ、良い本を読み、良き友を見つけ、良き先生と出会い、進んで皆と語り合い、実り豊かな学生生活を営み、二度とない青春を謳歌することを心より切望いたします。

以上を祈念し、私の式辞といたします。

平成30年4月8日

長野県立大学 学長 金田一 真澄